

Title	東京歯科大学広報 第217号 平成18年01月31日発行
Journal	東京歯科大学広報, (217): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/3754
Right	



東京歯科大学広報



丙戌（ひのえいぬ）

平成18年1月5日（木）

金子 譲学長による年頭の挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年は、私達の任期である3年目を迎えますので、4月からの平成18年度は最後の年ということになります。3年間の中で計画していた事について、着実に実行していこうと思っております。

現在の日本の大学の状況を見ますと、全国で大学と短期大学を合わせると約900校、その内4年制の大学は700校位あるのですが、再来年度より、高校生の大学入学希望者が全入時代になります。昨年、この700校の4年制の大学のトップ

に大学の存続についてのアンケート調査が行われたのですが、700校の中の10%がつぶれてしまうだろうという結果が出たそうです。また、このアンケート結果で興味をひく点が、経営的にも安定し、つぶれることはないと思われる大学の方が厳しい見方をしており、そうではない大学が楽観的な見方をしていたそうであります。

本学についてですが、皆さんは私達の大学がつぶれるわけがないと、お思いになっていることと思います。しかし歴史を見ますと、東京歯科大学は、先ず高山歯科医学院時代に高山先生

2005年12月

2006年1月

217号

本号の主な内容

金子 譲学長年頭挨拶

平成17年仕事納めの会

平成18年仕事始めの会

2005年の回想&2006年の抱負

の経営がうまくいかずに、血脇先生に学院を移譲した事はご存知の通りだと思いますが、血脇先生は高山歯科医学院に入学してから4年目に、国に対して国立の歯科医学校の設立を請願しております。実は、この請願には高山歯科医学院を、そのまま国に移管してしまおうとするお考えがあったという一説があります。ですからこの時に一度、本学の存続が危うかったことがありました。また昭和の時代に入ってから、これは私が直接本学と関係の深い慶応大学の方から伺ったことがあるのですが、昭和30年代に危機をむかえたことが実際にあったそうです。

そこで、今後の歯科界に目を向けると、未来は非常に希望のある領域であると思いますが、日本には医療保険制度がありますので、我々の希望とその制度が簡単に合致するというわけにはいきません。従って、これから我々が何をすべきかということは、厳しい状況の中であっても、やはり大学の質を良くしていくという以外に方法はありませぬ。我々の大学はそれぞれに特徴を持つ三つのキャンパスを有しています。特徴があるということは、役割がそれぞれにあるということだと思います。特に千葉校舎については、大学の総本山であり、教育、研究、臨床を皆さんが担っているわけですので、これを高いレベルでバランス良く行っていくことが、大学の質を高めることにつながると思います。

それでは具体的にどうするかという点については、もちろん我々も申し上げますが、それぞれの部署の責任者からお話があると思いますので、皆様はその部署の長の指示に従って行動をすることになります。しかし、自分から周囲のことを理解せずに、指示待ちだけで済む時代ではありません。今までは、足りない部分には人を付けて機能させるというやり方をしていましたが、人件費の関係からも人的に膨張させることは出来ません。ですから、一人が二人、三人の役割をし、横断的に仕事を理解していくことが重要になります。車に例えるならば、燃費を良くしスピードも出るようなハイブリットカーのような効率の良さが必要になってくると思います。

それから研究についてはCOEの問題やHRCの継続、またコア研究の進展、更に新しく出来た

歯科医学教育開発センターの運営など課題も数多くあります。教育については、学生を歯科医師にする為に本学はありますので、知的な部分において予備校的な面も出てくるでしょうが、まずは国家試験の合格を考えねばなりません。しかし、東京歯科大学はそのための大学ではなく、そこに人間的な教育が古くから謳われています。ですから、特に教養の先生方には、新しく入って来た若い学生に、直接教科を教えることや課外活動等を通じて、様々な面で人間的な指導をして頂きたいと思っています。

また今年には三病院の事務部長が皆同じお歳で、三部長が全て一緒にご定年を迎えます。病院の事務職はとても重要であり、それは教員も医療職の方も常に感じていることであると思います。この三者がうまく噛み合い、互いの協力がなければ病院の円滑な運営は出来ませんので、その長がお辞めになるということは、大変な部分も多数あると思います。しかし、そこに新しい展開を求めて行動していくことが大切であると思います。

最後に一つだけ是非覚えておいて頂きたいことは、とにかく皆さんがこの大学を背負っているんだということです。会社で言えば社長になったつもりで、行動をして下さい。各部署でバランスを取りながら、工夫をし、知恵を出し、協調し合う。目標が必ずそれぞれの部署にありますので、それを良く理解して目標に向かって教職員の皆さんには、また今年も宜しくお願いしたいと思います。

健康が先ず第一ですから、自己管理には気をつけて、一年を無事に過ごして下さい。以上で新年のご挨拶とさせていただきます。



教授就任のご挨拶



市川総合病院
眼科
島崎 潤

本年1月より、東京歯科大学市川総合病院眼科教授を拝命いたしました。当院眼科は坪田前教授の時代から、角膜移植やドライアイ、眼表面再生など前眼部疾患の臨床、研究に積極的にとり組み、これらの分野では世界に通用するレベルを目指して活動してきました。おかげさまで角膜センター・アイバンク、水道橋病院や他の診療科との連携のもと、日本一の角膜移植件数、大型研究費取得など、ある程度目標を達成してきていると自負しております。今後も活発な活動を展開するには、現在の新研修医制度のもと、優秀な人材を確保することが非常に重要となります。教育プログラムの充実をよりいっそう図り、広く全国より臨床医、研究者を募っていく枠組みを構築することが必要と考えています。そのためにも、眼科の中でも得意分野をはつき

りと持つ「専門店形式」を維持しつつ、広い範囲での協力施設との連携を進めていきたいと思っております。同時に、近隣の先生方にも安心して患者様をご紹介いただける地域基幹病院の一員として、救急医療などを通じて実績を重ねていきたいと思っております。

私が初めて市川総合病院に赴任してから13年あまり経ち、私より古くからおられる先生の方がずっと少なくなりました。しかし部長を仰せつかってからは日が浅く、不慣れなことばかりです。新米教授として今後とも皆さまのご指導のもと、医局員一同市川総合病院をもち立てていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

略歴

1982 慶應義塾大学医学部卒、眼科学教室入局
1985 済生会神奈川県病院眼科(医長)
1987 ポストン大学、及びEye Research Institute of Retina Foundation留学
1989 慶應義塾大学病院眼科(助手)
1992.1 慶應義塾大学伊勢慶應病院眼科(部長)
1992.10 東京歯科大学市川総合病院眼科(講師)
1999.4 東京歯科大学市川総合病院眼科(助教授)
2005.1 東京歯科大学市川総合病院眼科(教授)
現在に至る。



市川総合病院
麻酔科
小坂橋 俊 哉

この度、教授会のご推挙により平成18年1月1日付けをもちまして、市川総合病院麻酔科教授を拝命致しました。身にあまる光栄であると同時に責任の重さに身の引き締まる思いでございます。今後も診療・教育・研究にバランス良く取り組み、東京歯科大学、並びに市川総合病院に貢献して参りたいと存じます。

市川総合病院麻酔科は平成5年に瀧野善夫教授

を迎え新設され、その直後に私が着任し2人体制となりました。常勤医師は現在では4名になりましたが、市川総合病院の救急患者の増加や新棟ICUの開設などにより、麻酔科に対する需要は増加の一途を辿っています。具体的には、緊急手術を含めた手術患者の全身管理やICUにおける重症疾患治療体制の確立、緩和ケアを含めた疼痛管理の推進に卒後教育などであります。私はこれらの需要に一步一步、応えて行くことが短期的には重要であると考えております。

一方、皆様ご存知のように、最近では麻酔科医師不足がマスコミを賑わせておりますが、当院もその例外ではありません。患者様が安心して安全な周術期医療を受けるためには、麻酔科のさらなる充実が必要です。しかし、すでに教育を受けた専門医を招聘することが困難である

ことから、私は診療の次に重要な項目に教育を据え、初期研修医への教育の充実によって麻酔科後期研修医増を図り、彼らを数年計画で一人前の麻酔科医に育てることを中期的目標にしたいと考えております。

この他、大学教員として卒前教育も重要な課題と考えております。国家試験とは関係のない領域であっても、社会的に重要な医学的教養として興味を持って受講できるような講義を心がけて参りたいと存じます。

最後に研究ですが、現在進行中の種々の項目を一つ一つ完結させて行けるよう、また国際的にその成果をアピールすることを継続させられるよう、切磋琢磨して行きたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

略歴

昭和61年 3月 慶應義塾大学医学部卒業
 昭和61年 5月 第80回医師国家試験合格
 昭和61年 5月 慶應義塾大学病院研修医(麻酔科)
 昭和63年 5月 慶應義塾大学医学部麻酔科専修医
 平成元年 1月 麻酔科標榜許可(第4971号)
 平成 2年 7月 慶應義塾大学医学部麻酔科助手
 平成 4年 4月 日本麻酔科学会麻酔指導医(第2602号)
 平成 5年 1月 埼玉医科大学総合医療センター麻酔科助手
 平成 5年 8月 東京歯科大学市川総合病院麻酔科助手
 平成 5年 9月 医学博士の学位受領(慶應義塾大学乙第2621号)
 平成 6年11月 東京歯科大学市川総合病院麻酔科講師
 平成 8年 4月 日本ペインクリニック学会認定医(第960051号)
 平成11年 8月 米国エモリー大学医学部麻酔科留学
 平成13年10月 東京歯科大学市川総合病院麻酔科助教授
 平成14年 4月 東京歯科大学市川総合病院麻酔科部長
 平成17年 5月 東京歯科大学市川総合病院集中治療室室長
 平成18年 1月 東京歯科大学市川総合病院麻酔科教授

助教授就任のご挨拶



口腔科学研究センター
 (分子再生研究室)
 東 俊 文

このたび口腔科学研究センター 分子再生研究室助教授を拝命いたしました。今後東京歯科大学に再生研究の拠点を構築するため邁進する覚悟であります。

再生医学研究は歯科医療において非常に重要な位置を占めております。高齢化社会における医療では特に予防医学的側面が重要であり、アンチエイジングとして歯の健康維持が大変重要なテーマとなってまいります。また、歯科医療は再生医療の技術応用が最も現実的な分野としても脚光を浴びつつあり、大きな進歩が期待できる分野であります。歯およびその周辺組織の修復、複製においては人工的なものに加え自己再生力を利用したものも徐々にではありますが、

実用段階に入ってきてまいりました。さらには歯そのものの再生が視野に入ってくるものと思われまます。また癌治療におきましても、幹細胞との関連に注目が集まりつつあり、この分野でも再生研究は重要な一翼を担っていくものと思えます。私は 微力ではありますがその中核的拠点となるべく奮闘してまいりたいと存じます。近年の財政状況と医学研究の研究費獲得競争の激化により、重点的拠点への研究費の集中供与が鮮明となってきております。大学としての存在意義のなかに 次世代の有能な学徒を育て永続的な大学の発展を図るため、よい研究を行うことも重要な点であろうと考えます。そのために東京歯科大学の発展の礎となることのできるような成果を挙げてまいりたいと念じております。皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

学内ニュース

博士(歯学)学位記授与

第546回(平17.12.14)授与

第515回(平15.2.19)合格

石井治伸(補綴)第1543号・甲868号

第522回(平15.10.8)合格

市川 淳(解剖)第1575号・甲889号

第527回(平16.3.17)合格

角 大 輔(補綴)第1593号・甲903号

第538回(平17.3.23)合格

沼澤秀之(口外)第1638号・甲937号

第545回(平17.11.9)合格

釜石秀明(生理)第1650号・乙704号

第547回(平18.1.25)授与

第515回(平15.2.19)合格

鈴木雄太(補綴)第1547号・甲872号

第521回(平15.9.10)合格

早川浩太郎(矯正)第1572号・甲886号

第526回(平16.2.18)合格

小平順可(補綴)第1583号・甲895号

第534回(平16.11.10)合格

前島昌世(解剖)第1615号・甲916号

第537回(平17.2.16)合格

丹野光恵(保存)第1627号・甲926号

市川総合病院教職員親睦旅行実施

市川総合病院恒例の教職員親睦旅行が木曜会の主催により多数の参加者のもと実施された。

昨年は新潟中越地震の影響により残念ながら中止となったが、今年は無事に行われた。例年と同様3班に分かれ、第1班は10月29日(土)～10月30日(日)、第2班は11月5日(土)～11月6日(日)、第3班は11月12日(土)～11月13日(日)の日程で、新潟方面への旅行となった。

各班とも、初日は東京駅より新幹線に乗り、途中、観光地を散策をしながら宿泊地である月岡温泉に到着。夜の大宴会では職種の違う者同士が、それぞれ盛り上がり大変楽しく、そしてくつろげた親睦旅行であった。新潟の美味しいお米と温泉を堪能し、お土産を買いこみ、3班とも無事に帰路についた。

内山健志教授ベトナム社会主義共和国ホーチミン市より表彰される

口腔外科学講座の内山健志教授はベトナム社会主義共和国ホーチミン市のOdonto-Maxillo Facial Centerにおいて平成8年より、口唇裂・口蓋裂をはじめとする口腔顎顔面の先天異常に対する医療援助、技術指導を行ってきた。このたび、ホーチミン市の人民委員会委員長より、10年にわたる功績に対して、平成17年11月25日(金)に表彰状を受けた。

また、新たにcountry-sideにおける同事業を展開するようとの日本外務省の指示を受け、ピントゥアン省のファンティエットで、口唇裂・口蓋裂患者に対する医療援助と技術指導を開始した。平成17年11月30日(水)には、ピントゥアン省の人民委員会委員長より今後4年間以上にわたる事業の継続の依頼を受け、「Tokyo Dental College Cleft Team」に対する感謝状を代表として受けた。



表彰される内山教授：平成17年11月25日(金)



Phan Thietにて記念撮影：平成17年11月30日(水)

第221回大学院セミナー開催

平成17年12月1日(木)午後6時から、千葉校舎第2教室において第221回大学院セミナーが開催された。今回は、東北大学大学院歯学研究科 口腔生物学講座 歯内歯周治療学分野の島内英俊教授を講師にお迎えして、「歯周病巣における歯周組織構成細胞と免疫細胞の相互作用」と題する講演を伺った。

島内教授は、以前より歯周組織を構成する細胞の免疫応答に関する一連の研究をされてきており、今回のセミナーでも、免疫担当細胞と歯周組織構成細胞の間に生じる相互作用について、また歯肉および歯根膜線維芽細胞を中心に歯周病巣における免疫応答と歯周組織構成細胞の役割について分かり易く解説して頂いた。歯周病巣における免疫応答の全容解明には、歯周病巣に棲息する細菌の特徴的な生物活性、病巣内に認められる免疫細胞および歯周組織構成細胞によるトライアングルを理解した上で研究を進めていくことの重要性を提示された。講演後には熱のこもった質疑応答がなされ、大変に内容の濃い有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される島内先生：平成17年12月1日(木)、千葉校舎第2教室

平成17年度(第36回)千葉県私学教育功労者表彰を受ける

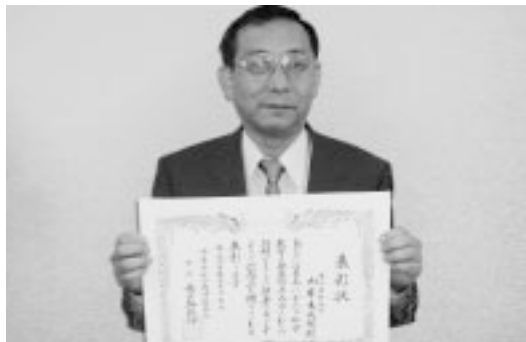
千葉病院 事務部長 山岸 東太郎 氏
水道橋病院 事務部長 梅津 道生 氏
市川総合病院 看護師長 大竹 タカ子 氏

この表彰は、千葉県内の私立学校の教職員として長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれるものであり、今回、本学からは当該者3名を推薦

した結果、表彰されることとなった。

山岸氏は、事務職員として39年間にわたり従事し、教育・研究及び診療業務を支える管理運営業務の円滑な実施に努めるとともに、大学の伝統と建学の精神の高揚に努め、大学の充実・発展に多大な貢献をした。その率先して事にあたる姿は、職員の範となっている。

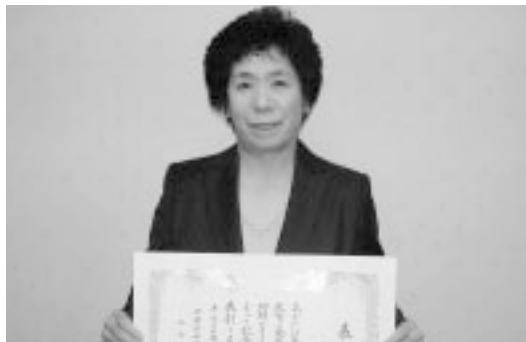
また、梅津氏は、事務職員として40年間にわたり従事し、教育・研究及び診療業務を支える管理運営業務の円滑な実施に努めるとともに、本学各施設での勤務経験を生かした豊富な経験をもとにした運営と指導に力を注ぎ、大学の充



表彰を受けた山岸氏：平成17年12月3日(土)



表彰を受けた梅津氏：平成17年12月3日(土)



表彰を受けた大竹氏：平成17年12月3日(土)

実・発展に多大な貢献をした。その温厚、誠実な性格は多くの人に信頼を寄せられている。

また、大竹氏は、看護師として21年間にわたり従事し、病棟勤務に携わり、親身に接する姿勢は、患者からの信頼があつい。また、その誠実、勤勉で責任感の強い性格は、後輩看護師のみならず、他業務の職員からも信頼されている。以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。

第2回試験問題作成に関するワークショップ

平成17年12月3日(土)、4日(日)、セミナーハウス クロス・ウェーブ船橋において、第2回試験問題作成とセキュリティの確保に関するワークショップが開催された。本ワークショップは、文部科学省の平成17年度特色ある大学教育支援プログラムで選定された本学の取組「IT環境でのグローバルエバリュエーション」を更に充実・発展させる事業のひとつとして実施するものである。

今回は、本学の教養、基礎、臨床教育職員28名を対象とし、歯科医学における基本的な知識の理解と総合的な診断能力・問題解決力を総括的に評価するための多肢選択式試験問題作成のスキルアップ、更にその試験問題の重要性に配慮し厳正に管理する能力の向上を目指し、個人演習および5グループによるブラッシュアップ等の実践的なワークショップを行った。参加した受講者からは、「他講座・研究室の問題作成の考え方を学ぶことができ、今後試験問題を作る上で参考になった」「問題作成時の疑問点をその場で解決できたのが良かった」等の感想が挙げられた。

最後に、受講者に修了証書が授与され2日間の



グループ演習：平成17年12月3日(土)、セミナーハウス クロス・ウェーブ船橋

日程を終了した。本ワークショップにより、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、ひいては、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指している。

脳死下臓器提供シミュレーションの実施

市川総合病院は脳死下における臓器提供病院に指定されており、その手順書に基づいたシミュレーションが、平成17年12月3日(土)午後1時から午後5時まで、本番さながらの緊張感をもって行われた。

実際に院内で脳死患者が発生し、臓器提供の意思表示がなされた場合に、誰が、どのような行動を取る必要があるのか、臓器移植ネットワークの方に参加していただき、その指導を受けながら行われた。市川総合病院の各職種からも多くの参加者を得て、ご遺族に対して故人の意思をどのように確認するか、そして実際の臓器摘出に至るまでの一連の手順を学ぶ非常に貴重な機会となった。



シミュレーション実施風景：平成17年12月3日(土)市川総合病院

澁井武夫助手Poster abstract, 1st placeを受賞

平成17年12月3日(土)～6日(火)にインド、Chennaiでおこなわれた1st International Workshop of the International Cleft Lip and Palate Foundationにおいて口腔外科学講座の澁井武夫助手はポスターセッションにおいて「Sequential Multidisciplinary Treatment for Cleft Lip and Palate Patients in Our Clinic」と題する発表を行い「Poster abstract, 1st place」を受賞した。発表内容は本学における唇顎口蓋裂患者の一貫治療をまとめたもので、口唇形成術や口蓋形成術などの手術レベルの高

さはもちろんのこと、手術だけでなく、歯科矯正、言語治療も含めた総合的な治療成績の高さが評価された。通常、口蓋形成術を施行すると創部の癒痕によって上顎骨の成長抑制が引き起こされてしまうことが多い。しかし、当院で行っている二段階形成術を矯正科と連携して治療することによって、外科的矯正治療なしに理想的な咬合を獲得することができる。そのようなことについて、他の国々の参加者から具体的な手術テクニックやポイント、手術施行時期などについて多数質問が寄せられ、今回の受賞となった。



受賞した澁井助手(左)と共同演者の内山健志教授(右)

第222回大学院セミナー開催

平成17年12月5日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第222回大学院セミナーが開催された。今回は岡山大学大学院歯学総合研究科 脳神経制御学講座の竹居孝二教授を講師にお迎えして「エンドサイトーシスの分子メカニズム」と題する講演を伺った。細胞はその生命を維持するためにさまざまな栄養素を細胞外から取込むが、それ以外にもある種の病原体の感染機構



講演される竹居先生：平成17年12月5日(月)、千葉校舎第2教室

にも関与している。また、人為的に細胞内に遺伝子を導入して遺伝子治療を行ったりするときにもエンドサイトーシスが関与している。本セミナーでは、エンドサイトーシスの分子メカニズムについてわかりやすく解説をいただいた。竹居教授は東京歯科大学のご卒業後病理学講座にて学位取得され、アメリカのエール大学で長年研究を積まれた経歴がある。当日は大学院生のみならず多くの研究者が聴講し、歯周病原菌の生体内侵入などの質問を始め多くの質疑がなされ有意義なものであった。

特別講演会の開催

市川総合病院の教職員の健康に対する意識向上のため、平成17年12月5日(月)午後5時30分より、市川総合病院の講堂において特別講演会が開催された。

慶應義塾大学の石井裕正名誉教授をお招きし、「肥満・アルコール・薬物と健康障害 - 肝臓病を中心に - 」と題する講演を伺った。体質によりアルコールを分解しやすい人とそうでない人がいること。そうでない人が無理にアルコール摂取を続けると、表面的にはアルコールが飲めるようにはなるが、実際には肝臓をはじめとする種々の臓器の細胞障害をおこし、発がん率が高まる事が確認されていることなど、興味深いお話をユーモアを交えつつご講演いただき、大変有意義な講演会となった。



講演される石井名誉教授：平成17年12月5日(月)、市川総合病院講堂

第223回大学院セミナー開催

平成17年12月8日(木)午後6時より千葉校舎第2教室において、第223回大学院セミナーが開催された。今回は、東京医科歯科大学大学院歯歯

学総合研究科 環境社会歯医学系国際健康開発学講座 スポーツ歯医学分野 上野俊明助教授に「咬合と全身の関係 - 骨格筋機能に焦点をあてて - 」と題するご講演を頂いた。昨今咬合と全身の関係については、多様な切り口から検証が試みられており、様々な学問領域が参画している状況にあるがスポーツ歯科医学もこの研究系譜の一つとして見る事が出来る。先生は、これまで「咬合と身体運動機能」の関係について、特に電気生理学的観点からその解明に取り組んで来られた。そこで、本セミナーでは神経・筋の生理に触れながら、咬合と骨格筋機能の関連に関するこれまでの研究成果を概説して頂き、併せて未解決な問題点を考察し、更に今後の研究課題を整理しながらのご講演で、スポーツ歯科医学に興味を持つ大学院生にとっては、大変有意義なセミナーとなった。



講演される上野先生：平成17年12月8日(木)、千葉校舎第2教室

伝達講習会の開催(市川総合病院)

平成17年12月14日(水)午後5時30分より、市川総合病院の講堂において伝達講習会が開催された。

まず、首藤由紀江主任看護師により「5日間でタバコをやめる」禁煙講習会に参加して学んで来た内容についての講演を伺った。タバコがもたらす害と、禁煙を成功させるにはしっかりとした動機付けが必要であることや、具体的な禁煙方法などについて教示された。

続いて、畠 亮市川総合病院長により、「『病院改革』 - 日本の医療はどう変わるのか - 」と題した講演が行われた。今は医療の第3革命といわれており、キーワードはアウトカム・マネジメントとそれを評価するためのクリニカル・イン

デックスであり、この2つのキーワードから厚労省の医療制度構造改革や急性期病院の将来像が読めてくることなどをお話になり、各職種からの参加者を得て、大変有意義な講習会となった。



講演する畠病院長：平成17年12月14日(水)、市川総合病院講堂

平成17年度東京都エイズ診療従事者研修会開催
平成17年12月15日(木)～16日(金)および平成18年1月25日(水)～26日(木)の2回にわたり、「平成17年度東京都エイズ診療従事者研修会」が開催された。この研修会は水道橋病院が東京都より「エイズ診療協力病院」の指定を受けていることから、都の委託により、エイズ診療に従事する方々を対象に行っているものである。7回目にあたる今年度の受講者は、都内の医療機関に勤務する歯科医師および歯科衛生士の合計11名であった。

柿澤 卓水道橋病院長をはじめ、口腔外科、保存科のスタッフが講義・実習を担当した他、第1回には立川夏夫先生(国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター)、第2回には今村顕史先生(東京都立駒込病院感染症科)を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場からご講義いただいた。また、CCR(クリー



CCR見学・実習風景：平成17年12月15日(木)、水道橋病院CCR

ンケアルーム)において、実践的な感染予防対策およびHIV患者の治療見学等を行った。研修修了後のアンケートには「あらためて感染予防対策について考えさせられた」「実際の治療を見学し大変参考になった」等の感想が記されており、本研修会の成果の大きさを伺うことができた。

木曜会クリスマスパーティー

市川総合病院教職員の親睦団体である木曜会主催による、年末恒例のクリスマスパーティーが、平成17年12月16日(金)に、東京ドームホテル天空Bにて行われた。

今年は総参加者数408名を数え、中島庸也教授(木曜会委員長)の開会宣言、畠 亮市川総合病院長(木曜会会長)の挨拶に続いて、寺嶋 毅講師(内科)による乾杯の発声で開宴となった。会食・歓談の後、メインイベントである部門対抗出し物大会が12グループの出場を得て行われ、例年になくにぎやかな雰囲気となった。それぞれ勤務終了後、夜遅くまで一生懸命練習した成果を披露し、パーティーは大いに盛り上がった。



熱演！出し物大会：平成17年12月16日(金) 東京ドームホテル天空B



表彰状を読み上げる中島委員長：平成17年12月16日(金) 東京ドームホテル天空B

第48回歯科医学教育セミナー

平成17年12月19日(月)午後6時から千葉校舎第2教室において、第48回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「シラバスについて 1)シラバスとは 2)Webシラバスシステムについて」と題し、小田 豊教務部長、河田英司歯科医学教育開発センター主任より説明が行われた。

まず、小田教務部長よりシラバスについての説明があった。本学の今日までの授業要覧の移り変わり、シラバスの概要、作成にあたって取り入れるべき項目、そして、シラバスは一部の人のみで作るものではなく、科目に携わる教員全員によって作成されるべきものであるとのことであった。次に、河田歯科医学教育開発センター主任より、Webシラバスについての説明があった。Webシラバスは教育用Webサイトに設置され、本学の学生に公開されている。今年度よりWeb上で授業要覧の入力・編集が行えるようになり、作成にあたり担当者の登録、入力・編集の仕方についての注意事項等説明があった。当日は教職員112名が集まり、Webシラバスの作成方法について皆熱心に耳を傾けていた。



説明する小田教務部長：平成17年12月19日(月)、千葉校舎第2教室

市川総合病院における新任教授講演会開催

昨年より、市川総合病院において教授に就任された先生方が、どのような研究、診療を行っているのかを広く市川総合病院の教職員に知って欲しいとの主旨により、全職種の職員を対象とした講演会が企画され、平成17年12月22日(木)市川総合病院講堂において、その第二回目が開催された。

初めに、泌尿器科部長の丸茂 健教授により、「腎細胞癌の疫学と治療 - 新たな時代を迎え

て-」と題する講演を伺った。続いて、リプロダクションセンター長の石川博通教授により、「少子化社会と男性不妊」と題する講演を伺った。

講演は、いろいろな職種の職員にもわかりやすいように言葉を選んで行われ、終了後は質疑応答もあり、有意義なものとなった。



講演する丸茂教授：平成17年12月22日（木）、市川総合病院講堂



講演する石川教授：平成17年12月22日（木）、市川総合病院講堂

平成17年仕事納めの会

平成17年12月28日（水）、千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎の3キャンパスにおいて、平成17年の仕事納めの会が行われた。

千葉校舎「平成17年仕事納めの会」は、午後1時から厚生棟1階食堂において開催された。会場は多くの教職員、大学院生、歯科臨床研修医等で埋め尽くされ、能登 勝大学庶務課長の司会により始められた。まず、金子 譲学長から挨拶が述べられ、引き続いて薬師寺 仁副学長の発声により一堂乾杯し、一年間の労をねぎらうとともに和やかに懇親を深めた。懇談の後、永井隆夫事務局長の中締めにより締めくくられた。

市川総合病院では、午後4時から講堂において開催された。金子学長および畠 亮市川総合病院

長より、一年の労をねぎらう言葉と協力に対する感謝の挨拶があった。金子学長より、文部科学大臣表彰、千葉県私学教育功労者表彰が披露され、続いて畠病院長より感謝状の贈呈が行われた。続いて山根源之副病院長の発声による乾杯の音頭で始まり、和気藹々のうちに懇親が行われた。

水道橋校舎では午後6時より東京グリーンホテル水道橋にて、井上 裕理事長、熱田俊之助常務理事、歴代の水道橋病院長である長谷川正康名



挨拶をする金子学長：平成17年12月28日(水)、千葉校舎厚生棟



挨拶をする畠病院長：平成17年12月28日(水)、市川総合病院講堂



挨拶をする柿澤病院長：平成17年12月28日(水)、東京グリーンホテル水道橋

誉教授、中久喜 喬名誉教授、高橋一祐名誉教授、金子学長、薬師寺副学長、井出吉信学監・法人主事をお迎えし、水道橋病院・法人事務局の教職員が一堂に会して開催された。会の冒頭で井上理事長、金子学長、柿澤病院長よりご挨拶をいただき、続いて熱田常務理事の発声により乾杯した。参加した教職員は終始和やかな雰囲気での瀬を惜しむかのように時間いっぱいまで懇親を深め合った。また、会の最後には、病院長より水道橋病院の医療収入増収に対して、労をねぎらう意味で教職員一人ひとりに「豆大福」が贈られ、予想外のプレゼントを手にした教職員は、皆笑顔で会場を後にした。

平成17年度「歳末助け合い募金」実施

年末恒例の「歳末助け合い募金」は、平成17年度も千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎の3施設において、12月初旬から年末までの日程で実施された。

なお、集められた募金は、すべて「日本赤十字社NHK歳末たすけあい義援金」として寄付された。

平成18年仕事始めの会

平成18年1月5日(木)、千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎の3キャンパスにおいて、平成18年の仕事始めの会が行われた。

千葉校舎は、午前9時30分から講堂において教職員、大学院生並びに歯科臨床研修医等が出席し、井出吉信学監の司会のもと、金子 譲学長による年頭の挨拶が行われた。

市川総合病院では、午後4時から講堂において開催された。まず、金子学長より、これまでの努力への感謝の言葉と、今後のさらなる協力をお願いする旨の挨拶があった。大学や医療の現場を取り巻く厳しい状況について丁寧に話され、その中で東京歯科大学、そして市川総合病院がどのようにして生き残って行くかについて話された。続いて畠 亮市川総合病院長より、難問山積の時期ではあるが、これは神様が市川総合病院の底力を発揮するために与えてくれた試練であり、教職員それぞれが職分に応じて自分が病院のためにどのような貢献が出来るのかを考えて協力してくれれば必ず勝ち組に残れるという

力強い挨拶があり、市川総合病院の一年の幕開けとなった。

水道橋校舎では午後5時30分より血脇記念ホールにて開催された。太田 茂総務課長の進行により、はじめに金子学長より年頭の挨拶があり、続いて柿澤 卓病院長より、挨拶ならびに水道橋病院の改革の方向性および改革にあたっての教職員の心構えについてお話があった。

第49回歯科医学教育セミナー開催

平成18年1月19日(木)午後6時から千葉校舎第2教室において、第49回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、新潟大学 大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 顎顔面再建学講座 組織再建口腔外科学分野の齊藤 力教授をお招きし、「国立大学の法人化で何が変わったか」と題した講演を伺った。

最近の国立大学歯学部への動向について、大学院重点化にはじまり、医学部附属病院と歯学部附属病院の統合、診療科の再編、それに伴う成果主義の導入による病院運営・経営の改善点、そして統合のメリット、デメリットについて新潟大学の現状に即して分りやすくご説明いただいた。次に、国立大学法人化後の運営の仕組み、中期目標・中期計画の策定について、最後に、国立大学3大学における4年制の新学科の設置について等ご説明いただいた。これからの大学運営に必須となる競争的資金の獲得、附属病院の増収益、地域・企業との連携の必要性など大学の運営にとっても参考となる話を拝聴した。当日は140名近い参加者が集まり質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなった。



講演される齊藤先生：平成18年1月19日(木)、千葉校舎第2教室

新故温

“ヒポクラテスの木”

千葉校舎、教養棟の東南側で夏を向かえると青葉を繁らせるプラタナスの木【和名：篠懸(すずかけ)の木、学名：Platanus Orientalis, L.】は、同窓の十期会の発案により、昭和57年(1982)4月30日に寄贈、植樹されたものである。

古代ギリシャの医師であるヒポクラテス(B.C.460~377頃)は、ギリシャのコス島(Cos)に生まれた。父は世襲の医師で、ヒポクラテスはこの父より医学の手ほどきを受けたといわれる。彼は、それまでの魔法医学を否定し、科学的医療の普及に努めた。そして、病人についての観察や経験を重んじ、当時の医术を集大成し、医聖、あるいは医学の父とも称されているのである。彼が残した、医師の倫理を述べた誓文である「ヒポクラテスの誓い」は、古今を通じて医師のモラルの最高指針とされている。

紀元前5世紀、ヒポクラテスは出身地であるコス島に医学校を建て、医学教育に情熱を注いだ。その医学校の庭にはプラタナスの大木が繁り、弟子たちはその木陰に集って、師ヒポクラテスの講話に耳を傾けたといわれている。このことから、この木から採られた実が世界に分けられ、多くの医学教育の場に「ヒポクラテスの木」として植樹されている。

本学に植樹された「ヒポクラテスの木」は、昭和30年(1955)に日本人医師として最初にコス島を訪れた山形市の篠田秀男博士が、当地に残る原木から球状果を持ち帰り、発芽させ、育成した若木のひとつ(篠田株)であり、岩手医科大学の厚意により分与されたものである。

「ヒポクラテスの木」の脇に設置された石版には次のようなヒポクラテスの言葉が書かれている。

VITA BREVIS, ARS LONGA
OCCASIO PRAECEPT
EXPERIENTIA FALLAX
JUDICIUM DIFFICILE
- HIPPOCRATES

人生は短く
学は遙けし
機は逸し易く
試みは過ち多く
判断は至難なり

(石渡隆司訳)



2005年の回想 & 2006年の抱負

池上 健司(物理学研究室 助教授)

昨年は世界物理年でした。また、宇宙飛行士の野口さんが宇宙遊泳をしたり、JTBが宇宙旅行を売り出したり、探査機「はやぶさ」が小惑星へランデブーするなど、特に宇宙関連のニュースは多く、大学時代は「星を見る会」に所属していた私は心躍ることが多かった年でした。

そして今年は新入生が心配です。一般入試より前にこの文を書いているのですが、今年はゆとり教育のために今までよりもかなり理科教育を受けられなかった世代が受験してきます。歯科を学ぶ上で必要な科学的基礎を理解していないために、講義内容を理解できない学生が増えることが懸念されます。このことへの対応が今年の抱負でしょうか。

伊藤 依子(学生 第3学年)

学士編入で東歯に入学して2年が経とうとしています。目標をもち、モチベーションを上げて入学したはずなのですが、特に2005年は実習やテストに追われる毎日で、なかなかモチベーションを保つのに疲れてしまっている自分がありました。

そんな日々をこなすのに精一杯になっている私の周りでは、ある変化が起こっていたのです。結婚ラッシュ！そういえば私も世の中の的には結婚適齢期で、このラッシュ到来も特別驚くことでもないのです。周りが人生の大きな決断をしている中、私はいまだ学生で明確な将来設計ができていないこともあり、内心焦ったりもしています。20歳の同級生とワイワイやっている場合ではないんじゃないかと思ったりも。しかし、自分で決めた人生だし、周りに流されることのないよう、目標に向けて一步一步前進していけるよう2006年も私らしくマイペースにいければと思っています。



大泉 康輔(学生 第2学年)

昨年は私にとってとても早く充実した1年間でした。勉強面では、カリキュラムの移行期ということで前期から基礎科目が始まりました。特に解剖実習は実際にご遺体で勉強させていただくという緊張感のあった実習で、自分が医療系の大学の学生であることをあらためて実感しました。

また私の所属しているバレーボール部では練習は大変厳しかったが、そのおかげで春の医歯薬大会では約20年ぶりに3部に昇格し、さらに8月に福岡で行われたオールデンタルでは10年ぶりに4位入賞を果たすことができました。福岡からの帰りには和歌山県にある部活の先輩と友達の家泊めていただき5日間にわたり和歌山の観光を楽しみました。

昨年は短期集中で試験に挑んでいましたが、どうしてもその場しのぎの勉強になってしまい、試験後勉強したことを忘れていたということが多々あったので、2006年の抱負として今年ができる限りこつこつと勉強するよう心がけたいと思います。

大川 登史(市川総合病院臨床検査科 臨床検査技師)

2005年は、スキルアップができた年でした。7月に日本睡眠学会認定臨床検査技師に合格し、12月には日本国内でもまだ約70名しかいないアメリカ睡眠学会認定技師であるRPSGT資格試験に合格しました。問題から答案の全てが英語という難易度の高い試験でしたが、3度目のチャレンジで合格でき、睡眠障害や睡眠時無呼吸低呼吸症候群の検査や解析業務に国内、国外問わずに精通できる、いわばエキスパート的な臨床検

査技師になりました。2006年の抱負は、これらの資格のおかげで多少自信が付きましたので、学会や研究会、勉強会などで演題を発表し、院内・院外において活発に活動できたらいいと考えております。仕事面では充実傾向ですが、プライベートではパツとしないので、こちらの充実も図りたいと思っています。さしあたり、未来の花嫁候補募集中です！興味のある方、生理機能検査室までご連絡を…。

大木 伸一(水道橋病院眼科 視能訓練士)

昨年末に私の上司の動物占いをこっそり調べた所、楽天的なトラでした。その性格は「誰とでも平等につきあえる開放的な人。先入観を持たずに、つねに公平なまなざしで物事をみつめます。」ということで心の中で理想の上司に清き一票を入れ、安心して新年を迎える事ができました。また大変働きやすい職場で働かせていただき感謝しております。

昨年は東京歯科大学教職員、患者様から多く患者様をご紹介いただき大変ありがたく思っております。水道橋病院眼科は今年もスタッフのチームワーク良く、患者様に充実した医療といサービスを提供していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

小沼 心(千葉病院医事課 事務員)

昨年は公私ともども様々な出来事があった年でした。特に仕事面では4月に市川から千葉へ異動となり、最初のうちは戸惑うことばかりで右往左往していましたが周囲の助けもあって、何とかここまでやってくることが出来ました。これからは周囲のみなさんの足を引っ張らないよう、がんばりたいと思ひます。

あと印象深かったことといえば、2年ほど前から始めた自転車です。初めて大会に出場したことです。富士スピードウェイを44周する200kmのレース。当初は「初レースでいきなり200kmは厳しいかも…」と思ひていましたがやるだけやってみようとしてスタートし、結果は6時間59分55秒(制限時間5秒前!)でゴール。あきらめなくてよかった!と思ひた瞬間でした。今年も仕事でもプライベートでも、あきらめることなく常に挑戦する気持ちを持って充実した一年になるよう努力

したいと思ひます。

金井 由起(口腔健康臨床科学講座 助手)

医局に残って10年目。今年で11年目になるうとしています。正直、自分がこんなにも長い間大学に在籍するとは思ひてもみませんでした。千葉で3年目を終えた頃に折良く水道橋勤務の話があり、自然と道ができてきたように思ひます。

今回、今年の抱負ということで書くに当たって考えたところ、未だかつて年頭の抱負など掲げた事もなく、思えばこの無計画性、将来へのヴィジョンのなさが思ひがけず長く大学に在籍することに繋がっているのだなと感じました。

病院での仕事も徐々にルーティンワークと化し、卒業当初のような向上心もいつの間にか失われている様で怠惰に時間ばかりが過ぎている現状。やはり、人は目標を決めてそこに到達しようとするからこそ成長できるのでしょうか。ここ何年も変化無いままの怠惰な生活から脱却するためにも先ずは具体的な目標を立てる事こそ今年の抱負にしようと思ひます。そこから新たな生活へと繋がってゆく事を期待して。

金安 純一(千葉病院庶務課 事務員)

昨年4月に就職して10ヶ月。右も左もわからない状態からスタートし、ようやく仕事の内容が少し分かるようになってはきましたが、相変わらず出来ない自分に腹が立つ毎日でございます。「このままではいかん!」と思ひ、自分を変えようと思ひてきましたが、殆ど変えられずに年越し…。ここ数年、1年経つのが早いと感じましたが、特に2005年は本当に早かったなと感じております。

年が開け、社会人2年目となる今年には真価が問われる年でもあります。また、昨年の年末には体調を崩し、「社会人たるもの健康管理が出来なくてはやっていけない」ことを痛感いたしました。

今年1年、さらなるレベルアップを目指していきたいと思ひます。

木崎 佳奈(大学事務局教務課 事務員)

正月、銀座でリバイバル上映されていた映画、「風と共に去りぬ」を初めて見た。影像の迫力と美しさ、話の面白さに大満足の4時間半。映画誕

生70周年というが少しも古さを感じなかった。

やはり後世に残る作品にはそれなりの理由があると思った。今年も、良いもの、面白いものをたくさん見て聞いて、楽しみたい。

木村絵里奈(水道橋病院総務課 事務員)

昨年4月1日より水道橋病院総務課庶務係に配属となり、勤務しています。入職当時は何種類もある届出書類の保管場所さえも分からず、忙しい時間の合間に書類を取りに来ている皆様をお待たせさせたり、電話を取れば一人で対応できず係長に代わって頂いたり、皆様にご迷惑のかけっ放しの毎日でした。そんな私でも何とか10ヶ月働けたのは、一から仕事を教えて頂いている係長や課長をはじめ、周りの皆様に助けて頂いているからです。心から感謝しています。

今年も自分の仕事を覚えることで精一杯かもしれませんが、少しずつ成長できるように頑張りたいと思います。

吉良 哲夫(市川総合病院会計課 会計係長)

今年は私にとって40代最後の年となる。半世紀近く生きてきた。江戸時代ならずで、隠居、縄文時代なら驚異的な長生き。もう歴史上の人物になるようだ。

職場でも、自分は古典的人間なんだと思えば、納得いくこともある。いつまでたってもパソコン初心者なのも、漢字が思い出せないのも、同じことばかり何度も言うのも、ぜ～んぶ耐用年数が超過したせいにすればいいのだ。

でも齢を重ねることは悪いことばかりでは無い。若い時には意識しなかったことが、見えてくることもある。この年月けっして無駄ではなかった筈。とりあえず今年はこの年代のフィナーレにふさわしいことを考えよう。自然体で肩肘張

らず「五分の真味に二分狭気あとの三分は茶目で暮らす」ことを心がけよう。

いよいよ40代ファイナル決戦の開幕だ!

河野 由貴(学生 第1学年)

大学生活がスタートしてからあっという間に時が過ぎ、気がつけばもうすぐ1年が経とうとしている。いろいろなことがあったが、2005年を振り返ってみると笑顔の絶えない1年であったと思う。朝何となく気分がのらないときであっても、学校で友達と話をしているうちに気がつくといつも笑っていた。帰るときになると「今日も楽しかったな。」と朝の憂鬱な気分もどこかに消え、いつも笑顔で友達と別れていた。このように毎日笑顔で過ごせたことを友達みんなに感謝し、今年もまた楽しく過ごしていきたいと思う。また、2学年になると専門的な勉強も始まり、今まで以上に大変になってくると思うが、笑顔を忘れずに、昨年よりもさらに充実した1年にしていきたい。

古賀 寛(衛生学講座 助手)

2006年正月いきなりこれまで経験のない腰痛におそわれてしまった。気持では若いと感じていたが確実に老いているわが身である。我が家では女性群が優位にたっており、中2である長女も本年度は受験で、ほとんど心のこもった会話らしきもの途絶えて久しく、此方が気を使わねばならない。一方、老いのはじまりといえども、仕事やこれに関する勉強欲は落ちていない。チャレンジ精神だけは忘れず、しかも、決して背伸びせず、身の丈にあった知識の習得に努めたいものである。ここ数年、もやもやしてまとめきれなかった課題を今年は多少すっきりさせたいと考えている。

佐藤美樹子(歯科理工学講座 研究補助員)

2005年のある日、階段を上るときにフツと思ったことがあった。“自分の体が重い...”。そういえば何年も運動らしい事は何もしていない。かといって、運動を得意としない私には何が出来る?と考え、唯一形になっている(と思っている)テニスを始めてみた。やってみると動きが鈍く、ついていけないのだが、終わってみるとどこか



スッキリ。後から押し寄せてくる筋肉痛もまたイイ感じだし、よ～し！今年も良い汗かくぞ！と思っていたら、今年の寒さは例年よりも厳しい。暖かい日が待ち遠しいな。

椎名 美和(大学事務局会計課 経理係長)

忙しい 忙しい～と言い続けて「忙しくて片付かない」なんて自分に言い訳をし続けた。忙しくても忙しくなくてもとにかく私は片付かないのである。イヤ片付けられないのだ。だから常にウロウロ オロオロ何かを探している。

整理整頓!!今年こそはどうかしたい机の上と抽斗とそして何より一番整理したいのは頭の中だ。困ったことに机の上と同様に頭の中も片付かない...

<片付ける>...yahoo! 辞書で調べてみる「物を、適当な場所にきちんと入れ納める。乱雑に置かれている物をまとめ整える。」オッサルトオリデス 今年こそはどうか「整理整頓」2006年の抱負と言うより宣誓です。

「せんせーい！今年整理整頓を常に心掛けるよう誓います」

澁谷 裕美(病理学講座 研究補助員)

何をやっても続かない私は、最近具体的な抱負を決めるのをやめました。その代わりに人生のテーマを考えたのです。それが「達成感と向上心」です。何か行動を起こすときは後でやって良かったと思えるように、次にもっとやってみようと思えるように。

そうしてみると全ての事が面白く感じられるようになりました。昨年は、秘書検定準1級に合格することができ、勉強も面白いと今更ながら気づきました。

大好きな千葉ロッテマリーンズの、バレンタイン監督が選手に野球を楽しむように伝えているという話を聞き、楽しむって素晴らしいことだなと思い、今年は達成感と向上心+Enjoyで1年を過ごしていこうと思います。

島田 和浩(図書課 閲覧係長)

正月三が日も過ぎた1月4日、こたつでのんびりしているのも疲れるので、どこかへ連れていけと言う両親を連れてバスと電車を使って近隣

の寺社に初詣に出かけました。コースはまずバスで柴又帝釈天に、次に電車を乗り継いで葛飾八幡宮へ、そしてまた電車に乗って中山法華経寺にというものです。このコースは昨年正月に初めて出かけ、今回は2回目ですが、幸いなことに、昨年1年間両親は病気も怪我もなく、今回も元気で歩いて行ってきました。初詣の願い事は、今年も家族全員が、病気も怪我もせず健康で一年を乗り切っていこうというのですが、そこでふと思ったのが、自分自身の健康のことです。ここ数年、健康診断で血圧が高いといわれ、その後の内科での診断で太りすぎて体重を減らすようにとされています。

そして、診断を受けた直後は、少し努力をしてみるのですが、時間がたつとそれも忘れ、結局いつも通りの食事の量にもどってしまい、体重を減らすことができませんでした。そこで、今回このような文章を書くことになったのをきっかけに、今年こそ体重を減らすよう努力していきたいと思います。これが私のささやかな今年の抱負です。

清水 真哉(独語研究室 助教授)

悲しい回想になりますが、私にとって2005年は英語の草野重行先生が亡くなられた年として記憶されることになりました。理科系の大学にあって、本の貸し借りをしたりできる数少ない文科系の同僚を失ったことは、埋め合わせことの出来ない喪失です。草野先生は世界中を歩いた旅人でした。また仏、伊、西他、何ヶ国語も外国語を学び続けました。そのようにして外国文化を吸収していこうとする意欲、そして何よりもその博学は、私にだけでなく、学生たちにも刺激を与えていたのではないかと思います。寂しくなりましたが、私も草野先生に倣って、書を読み、旅をして、言葉と文化を学び続けたいと思います。

杉原 直樹(衛生学講座 講師)

「年をとると1年があっという間に過ぎる」とは、よく言われることであるが、私もここ2・3年それを実感するような年齢になった。毎日の教育や調査研究、社会的活動あるいは事務的な仕事に忙殺されていると、それはそれで充実し

た毎日ではあるのだけれど、ともすれば何か主体性がなくなり、自分を見失っていくような気もする。がむしやらに仕事をする必要だと思いが、時として、孤独になって自分自身を見つめ、物事に対してじっくり考える時間も必要であると思う。今年は是非そういった機会を多く持ちたいと思っている。

下島 紀子(歯科衛生士専門学校学生 第2学年)

「歯科衛生士学校が3年制になった初の学年として期待しています。」耳にタコができそうなその言葉を背負って登院して4ヶ月。なにもかも初めての各科をたった10日ずつのローテーション。慣れる頃には次の科への連続だが、それでも皆ひとまわり大きくなった。期待には応えられているのだろうか。

今年は本当に「初の3年生」になる年。臨床実習後期にはそれぞれ自分の方向性を見つけて、私たちも将来にむけ期待でいっぱいになりたい。新たな1年生を迎えると歯科衛生士学校はこの狭い区域に130人超の大所帯になるらしい。皆でもうひとまわり大きくなると入りきらなくなりそうだ。

鈴木 悦子(秘書室 事務員)

- 2005年9月11日 -

私は4年前に大惨事が起きたNYにいました。

朝起きてTVをつけると、大々的なセレモニーが行われていました。大統領の演説、国家斉唱が行われ、次々と遺族が涙ながらに被害者の名前と思い出を語っている姿が映し出されていました。

しかし、ランチをとり現場であるWTC跡地に行ってみると、人気は少なくあたりは閑散としていました。被害者の名前が貼り出されたベニヤ板にマジックで をつけていく様や、車に乗せられた黒い鐘を人が次々と撞いていく様に、強烈なイベントやデモを想像していた私は拍子抜けしてしまいました。現場にはあらわれないところで繰り広げられる様々な人達の気持ちと、現場に行っただけでわからない事のどちらも大切にできるよこれから心がかげたいと思いました。

今年も、初心「皆が幸せになれるような東歯にしたい」を胸に、たくさんのソウゾウ力を持ちながら仕事に励みたいです。

辻野 千晶(法人事務局庶務課 事務員)

ここ2年間、結婚から引っ越しと生活に大きな変化があった。実家での生活が長かった私は家事に不慣れで、自分の思った以上にいろいろなことに時間がかかってしまい、夜の遅い時間まで洗濯をしていることもある。特に慣れない料理の時は、レシピ本とにらめっこしながら文字通り格闘中である。

そんな私も、夫の協力もあり最近になって少しは要領良くなったという気もするが、「仕事と家庭の両立」は大変だと改めて思う。これで子供ができたらもっと大変だろう。仕事には影響ないように気を付けているが、職場の皆様には気を遣わせていると思う。

要領の悪い私のことなので、まだまだ職場の皆様には迷惑をかけてしまうかもしれませんが、「両立」目指して頑張っていこうと思います。

津田 憲幸(大学事務局施設課 電気技師)

私の2005年は地球にやさしい1年でした。以前まではゴミとして捨てていた牛乳などの紙パックや肉などのプラスチックトレイは大部分リサイクル回収に出しました。特にプラスチックトレイは、購入後すぐ、トレイに被せてあるラップで肉などの品物を直接包み、その場でトレイ回収箱に入れるので回収率は100%に限りなく近かったと思います。少し遅いかもかもしれませんが、地球人としての自覚が芽生えてきたことを自分自身嬉しく思いました。

2006年はスーパーへ買い物に行く際にマイバックを持参することで、ビニール袋の消費を減らし地球環境に貢献していきたいと思います。



永井由美子(歯科衛生士専門学校 講師)

昨年は、本校第56期生が3年制教育の第1期生として「口腔を通じて人々の健康を考える」歯科衛生士を目標に、基礎実習に取り組み、10月に登院を迎えました。

今年も、新カリキュラムのもと試行錯誤しながら、臨床実習を通じて、学生達が目標を達成出来るよう、後輩達に広い(大きい?)背中を見せて行きたいと思います。また、4月には3学年がすべてそろい、130人の歯科衛生士を目指す学生でにぎわいます。昨年、応援して下さい下さった方々に応えられるよう、教育・臨床・研究に自己研鑽出来るよう、1年間健康にも十分、気をつけて頑張りたいと考えています。

中内 みち(市川総合病院薬局 主任薬剤師)

昨年は市川総合病院に電子カルテが導入され、薬剤師、栄養士、PT等コ・メディカルもカルテ記載が出来るようになり、患者さんの情報が医療従事者に共有できるようになりました。

今年は薬学6年制の初募集の年です。6年後には長期臨床実習を学んだ薬剤師が誕生します。その頃には、薬剤師が各病棟に常駐して、患者さんの薬に関する事は薬剤師が責任を持ってやっているようになっていけばいいなと思いつつ、今年の私はなるべく糖尿病患者さんのベッドサイドで臨床経験を積みたいと思っています。

成瀬 晋一(臨床検査学研究室 大学院生)

大学院の一年目はあっという間に過ぎてしまった。臨床検査学は他講座から受け入れている大学院生の数が非常に多く、ただでさえ狭い研究室も実験室もすし詰め状態だが、いつも活気にあふれている。その活気と熱気の中でもみくちやにされて、自分も少しずつ成長していくのを感じているが、油断しているとただ雰囲気飲み込まれているだけで、まだなにもわかっていない、なにもできない自分を知る。

今年は研究室の中で、流されないように溺れないように着実に成果をあげて、いい意味での存在感を発揮していきたいと自分に言い聞かせている。二年目もあっという間に過ぎてしまった、と後悔しないように。するかもしれないけど、いやするだろうけど。



旗手 重雅(法人事務局人事課 人事係長)

「通勤電車に乗るなんていつ以来だろう?いや、むしろ初めてじゃないか。」

平成元年に本学に奉職して以来、千葉校舎勤務だった私は、住居が近かったこともあり、電車通勤というものを経験していなかった。

2005年の春、千葉病院から法人事務局に異動になったことによって通勤電車初体験となったわけだが、最初のうちは乗るだけでくったり。それでも新たな部署でこれまでと異なる仕事に懸命に取り組んでいるうちに、気が付いたら通勤にも慣れていった。

2006年は更に通勤ラッシュに負けない体力をつけて頑張ろう!と思った。

春山 親弘(歯科保存学第三講座 助手)

早いもので歯科保存学第三講座に所属してから9年が経過しました。

毎日が臨床、教育、研究と忙しいながらも充実した生活を送っていますが、最近は大学での仕事にも慣れたせいか、ついつい中弛みになりがちです。

昨年は患者さんの数も急激に増加し、学会ではポスター発表をするなど忙しい日々が続きましたが、講座に所属している限り、臨床、教育、研究に励むことは当たり前と感じていました。しかし疲れて帰宅すると子供が走って玄関に出迎えに来てくれる姿を見ていると、もっと頑張らなければと思いそれ以上に『毎日を家族と健康で楽しく過ごせることの幸せ』を痛感いたしました。

さて今年の抱負ですが、この4月で10年目を向かえます。再度初心に返って、患者さんとのコミュニケーションや診療技術のスキルアップを計り、充実した日々を送りたいと思っています。

まだまだ自分自身課題が沢山ありますが、患者さんに信頼される歯科医師を目指し頑張っていきたいです。

細川 壮平(口腔健康臨床科学講座 助手)

昨年、水道橋病院は1つの講座となり、私の所属する総合歯科は大きな変革のときを迎えました。今までほとんど臨床のみの毎日でしたが、これからは臨床研修医の教育という仕事を抱えることになりました。私自身も病院助手から助手に採用され一気に仕事とその責任が大きいのしかかり、人に教えるという難しさに悪戦苦闘の日々でした。

そんなこんなであったという間に過ぎていった1年間でした。今年は昨年の経験を存分に生かし臨床と教育をバランスよく行えるようにしたいと思います。

村井 久美(千葉病院薬局 薬剤師)

成年の今年の元旦、寒いながら穏やかに日が昇り一年が始まりました。

昨年を振り返り一番の思い出は、娘と行ったイタリア旅行です。天気は良かったものの波が高く念願の「碧の洞窟」の中に入ることができず、ゲゲエ吐いた記憶のみ残りましたが良い思い出になりました。

毎年でのことではありますが、個人的にも仕事においても反省すべき点が多々あって、今年こそは頑張るぞ〜と気合ばかりが空回りしてしまいます。しかし日本中を見回しても、世界中を見回しても大変な出来事が日々おこっている今、普通であることの尊さと喜びをかみしめながら生活していきたいと思います。

山岸 等(大学事務局学生課、事務員)

昨年は、すごく知り合いが増えた一年でした。一昨年に学生課に異動になった際、孤独感を感じていた私は、「一人あいさつ運動」と勝手なテーマを設け日々取り組んできました。他部署に入るときに「失礼します!!」...シーン。知らない人でも、とりあえず「こんにちは!!」...リアクション薄っ。でも“いーよ。いーよ。ある意味自己満足だし!”と思いつつやってきたわけなのです。継続は力なり!という言葉信じて、

今年もまずは、朝の挨拶から頑張っていこうと思います。以上

山科 光正(学生 第5学年)

昨年は、1月の前期総合学力試験に始まり、CBTやOSCE、そして4月からは登院、臨床実習と奮戦が続く間、気付くと季節は移り変わり、再び寒い冬を迎えていた、というのが現在の率直なる感想と言えるだろう。今回ほど、寒さが厳しく、春の訪れを待ち焦がれる冬は、近年なかったと思われるが、今年という年も、この冬のように厳しいものとなると覚悟しなければならないだろう。それは、国家試験が困難さを増している状況の中で、試験突破に向けて、更なる不断の努力が必要とされるからである。しかし、厳しい冬でも、穏やかな日差しに包まれる小春日和があるように、忙しい日々の中にも、学生の特権を享受できる時を大切にしたい、と思うこの頃である。

油木 淳子(市川総合病院庶務課 事務員)

早いもので、私が東京歯科大学に就職して、もうすぐ一年が過ぎようとしています。昨年は、学生から社会人となり、環境が大きく変化した中で、「時間の大切さ」というものを痛感した一年でした。そんな生活にも慣れた今年は、時間を上手に使って、中身の濃い一年を過ごしたいと思っています。しかし、まずは、未だに毎日が遠くなる程長い「通勤時間」の過ごし方をもう少し考えなくては。何はともあれ、今年(も?)オンとオフをしっかりと切り替え、興味のあることには積極的にチャレンジして、心身共にタフな一年を過ごしたいと思います。



学生会ニュース

硬式野球部秋季リーグ優勝！

硬式野球部の秋季関東歯学部リーグ戦が平成17年10月23日(日)、11月5日(土)、6日(日)の3日間を利用して本学御殿町グラウンドにて開催された。

本学野球部は、今年の春季リーグ戦を制し「王者」として今大会に臨んだ。主将が代替わりしたばかりのまだまだ若いチームであったが、地力は確実についてきていた。見事、創部史上初めてとなる春・秋連覇の快挙を成し遂げたのである。

昨年夏に行われた歯学体では、九州歯科大学を相手に惜しくも2回戦で涙を飲むことになった。その後、九州歯科大学は決勝まで勝ちあがり準優勝となる。「たら・れば」の話をしてはいけないが、あの時「もう少し運があれば、もう少し頑張っていれば…」実力的には充分あったのだ。その悔しさを胸に、今大会では攻撃が大爆発。特に決勝戦では、神奈川歯科大学を相手に20 - 16と乱打戦を制し、再び優勝カップを本学へと持ち帰った。関東に敵はもういない。来年、地元千葉で行われる歯学体では、ホームの利もある。さらなる飛躍を期待することができるだろう。

硬式野球部主将 白井朋之君(3年)

「デンタルでは、2回戦で九州歯科大学にサヨナラ負けを喫し、その悔しさを持って新たな代はスタートしました。チームの意志を統一するのは主将としてかなり苦労しましたが、とにかく負けたくないという気持ちをもって、技術はもちろん、精神面での成長を目標に練習を行って



「やるときゃやるぜ！」東歯硬式野球部ここにあり：平成17年11月6日(日)、御殿町グラウンド

きました。まだ完成されたチームには程遠い状態ですが、今までの練習が少なくとも間違ったものでないとわかったので、これからもとにかく気持ちの面での成長を遂げ、その上に技術をプラスさせていき、来年のデンタル優勝を目指していきます。」

第88回秋季東都学生剣道大会

日時：平成17年12月11日(日)

主管：東京国際大学

剣道部、一般大学も撃破の快進撃
木村真由美選手、女子個人戦初制覇
男子団体戦も三位で表彰台

剣道部の勢いが止まらない。史上初、二年連続の歯学体・関東医歯薬獣の二冠達成、関東医歯薬獣三連覇による連盟杯永久保持など次々と記録を塗り替えてきた本学剣道部だが、一般大学相手にも引けを取らない戦いぶりでのその実力を証明した。



新女王誕生！見事優勝の木村真由美さん(2年)：平成17年12月11日(日)、東京国際大学



ハイレベルな戦いの中結果を残し、充実の記念撮影：平成17年12月11日(日)、東京国際大学

木村真由美選手(2年、三段)は女子では創部史上初となる東都大会での個人戦優勝。一回戦から決勝まで全5戦のうち2試合が延長にもつれ込むなど、稽古量の違う一般学生の実力に苦しめられたが持ち前の勝負強さで接戦をものにし、全試合相手には一本も許さずハイレベルな戦いの中で女王の座を射止めた。一般学生相手の個人戦優勝は平成16年の春季東都大会で男子の三條恵介選手(現4年)が達成して以来。

また、男子団体戦(7人制)でも城西国際大学、明星大学などの上位進出常連の強豪校を撃破し4強進出。いずれの試合も接戦で、緊迫の名勝負を展開した。準決勝で工学院大学に敗れはしたが、5、6年生の主力が引退した新チームでも「未来」を感じさせる奮戦を見せ、一年最後の大会を締めくくった。「東歯大剣道部史上最強のチーム」と言われた常勝軍団は、メンバーが入れ替わっても三年連続の二冠を狙い高いモチベーションで2006年の戦いに挑む。(写真、文章協力：剣道部OB会広報)

スキー部 第22回冬季歯科大学対抗戦 第3位入賞!

平成18年1月1日(日)~3日(火)の日程で第22回冬季歯科大学対抗戦が行われ、本学スキー部が見事総合3位入賞を獲得した。今回の大会は本学の主管で長野県野辺山スキー場にて行われたもので、全国から集まった11の歯科大学・歯学部によって優勝が争われた。本学スキー部員は、大会役員としても大会を陰から支え、平均睡眠時間3~4時間という中で競技者としても見事に結果を残したのである。

今回の躍進の原動力になったのは、女子総合個人優勝の岡本江里奈さん(2年)とオープン女子総合個人優勝の山崎詩織さん(衛生士校1年)そして男子個人総合6位入賞を果たした黒田英孝君(4年)である。昨年の岡本さんの加入以来、各部員がメキメキ地力をつけてきていたスキー部であるが、個人での活躍は光るものの総合記録となると目に見える結果が現れず悔しい思いをしてきていた。今大会は、平井義人スキー部長・学生部長の見守る中、晴れて総合3位に入賞することができ、これまで培ってきたものが一気に花開いたといえよう。3月に開催される歯学

体においてもさらなる活躍が期待される。

スキー部主将 石川 昂君(4年)

「冬季歯科大学対抗戦が平成18年1月1日より3日まで、長野県レーシングキャンプ野辺山スキー場で行われました。今年の大会は東京歯科大学が主管であったため一段と気合いの入る大会となりました。多忙な大会準備期間を過ごし部員一同結団力が高まり、総合3位という好成績を収めることが出来ました。今後の『勝てるスキー部』への変貌をご期待ください。」



表彰台を前にハイチーズ!! :平成18年1月3日(火)野辺山スキー場

平成18年武道始め・鏡開き

平成18年1月13日(金)午後6時20分より千葉校舎体育館第3体育室において、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、平井義人学生部長、小田 豊教務部長並びに武道系各クラブ部長や関係教職員を迎え、新春の恒例行事である「武道始め」が櫻井里香さん(4年、弓道部主将)の司会により挙行された。

金子学長、平井学生部長および各クラブ部長が挨拶を述べた後、柔道部、弓道部、空手道部、少林寺拳法部、剣道部の順で演武が披露された。会場は冬の寒さを吹き飛ばすような熱気にあふれ、各部員の心・技・体の格段の向上ぶりが見て取れた。

武道始め終了後、午後7時より会場を厚生棟1階食堂に移し「平成18年鏡開き」が催された。「鏡開き」とはもともと武士の風習である。武士は、年初に「鏡開き」という行事をとおして、気持ちを新たに一家の円満を願ったそうである。参加した武道系クラブ学生もクラブ部員各自の一年間の息災を願いつつ、もち米が周囲に飛び

跳ねるほど威勢よく杵を振り下ろしていた。
余談になるが、今回の武道始め・鏡開きには



静寂の一瞬。視線が一本の矢に集まった：平成17年
1月13日（金）千葉校舎体育館1階

Jeremy Williams助教授・鄭 翰聖客員教授も参加
され、日本ならではの行事に目を見張っていた。



もち米コネコネ。慣れない作業を楽しんだ：平成17年
1月13日（金）千葉校舎厚生棟1階

図書館から

本学教員著作リスト

（本学の教員名が標題紙に記載されているものに
限定）

高野伸夫[ほか]著 「動画とイラストで学ぶ抜
歯のテクニック」 医歯薬出版

本学教員の著書については、特に収集に努
めております。著書発刊のりにはご寄贈のほ
ど、よろしく申し上げます。

図書返却のメール通知サービス開始について

現在、図書返却のメール通知サービスを開始
しています。返却期限日が過ぎるとメールが自
動送信され、貸出図書の返却についてお知らせ
するものです。返却期限が過ぎた図書は速やか
にご返却をお願いします。

SDバックファイルサービス開始

図書館では安定的な電子ジャーナルの提供を
目的に、Elsevier社の電子ジャーナル(Science
Direct)についてバックファイルを購入すること
になりました。歯科系13タイトルが概ね創刊年か
ら1994年まで利用可能となっています。

タイトルリストは以下URLをご参照ください。

URL:<http://www.tdc.ac.jp/lib/jnl/#sdback>

NLM Locator Plus 日本語検索可能

LocatorPlusで日本語の表示・検索が可能になり
ました。2006年1月より、NLM(National Library of
Medicine)の蔵書がweb検索できる「LocatorPlus」
において、日本語での表示・検索も可能となっ
ています。対象となるのは日本語の付与されて
いる約3,000タイトルであり、2001年より登録さ
れたものについてはすべて含まれます。NLMが
所蔵する古医書についてもすべて日本語が付与
されており、検索が可能となっています。

LocatorPlus

<http://locatorplus.gov/>

卒業後の図書館利用について

学部、大学院、衛生士専門学校を卒業後も、
本学図書館の利用が可能です。ただし、卒業後
本学に在籍している場合とそうでない場合とで、
貸出制限冊数など、若干の違いがあります。カ
ウンターにて所定の手続きをしてください。本
学に在籍していない方は、直接来館した場合に
限り、2冊まで2週間、図書を借りることができ
ます。また文献入手の要望に応じて、複写文献
を送付するサービスも行っています。代行検索
についてはホームページ上でも受け付けていま
す。来館時にはIDカードをご持参ください。「入
館ゲート」を通る際、IDカード(職員証、学生証、

Library Card)が必要になります。カードをお持ちでない方は、カウンターに申し出てください。

ご不明な点は、図書館カウンター(043-270-3687)まで。

人物往来

国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

東京歯科技工専門学校(学生47名、教員2名)
平成17年12月8日(木)解剖学教室、病院、他見学
太陽歯科衛生士専門学校(学生96名、教員3名)
平成17年12月20日(火)解剖学実習、病院、他見学
東京歯科技工専門学校(学生40名、教員2名)
平成17年12月20日(火)、21日(水)歯科理工学実習
埼玉県立大学短期大学部(学生30名、教員2名)
平成18年1月19日(木)解剖学実習、病院、他見学

市川総合病院

東京医科歯科大学医学部(学生2名、教員1名)
平成17年12月13日(火)、14日(水)臨床実習

海外出張

内山健志教授、澁井武夫助手(口外)
1st International Workshop of the International Cleft Lip and Palate Foundationで発表のため、12月2日(金)から8日(木)までインド・チェンナイへ出張。

金子 譲学長

「台湾特殊需要者口腔照護学会」設立にあたり、特別講演講師として出席のため、12月9日(金)から12日(月)まで台湾・台北へ出張。
一戸達也教授(歯科麻酔)、関口 浩 助教授(小児歯科)

台湾における障害者歯科診療の現地指導のため、12月9日(金)から12日(月)まで台湾・台北へ出張。

嶺山浩司助手、柳澤伸彰大学院生(解剖)

The American Society for Cell Biology 45th Annual Meeting(第45回アメリカ細胞生物学会)で発表のため、12月10日(土)から16日(金)

までアメリカ・サンフランシスコへ出張。

澤田 隆 助教授(口腔超微構造)

The American Society for Cell Biology 45th Annual Meeting(第45回アメリカ細胞生物学会)で発表のため、12月10日(土)から16日(金)までアメリカ・サンフランシスコへ出張。

白石 建教授(市病・整形外科)

金浦空港ウリドゥル脊椎病院訪問のため、12月14日(水)から17日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

薬師寺 仁教授(小児歯科)

台湾口腔衛生科学学会第一回設立大会、及び学術検討会における招待講師として出席のため、12月16日(金)から20日(火)まで台湾・高雄へ出張。

中島庸也教授(市病・耳鼻咽喉科)

Biolitec社のレーザー技術に伴う手術見学、及び講習の参加のため、1月15日(日)から20日(金)までドイツ・ハンブルグへ出張。

穴澤卯圭助手(市病・整形外科)

The Sixth Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Societyで発表のため、1月17日(火)から21日(土)までタイ・チェンマイへ出張。

平井義人教授、加藤純二講師、明石 豪大学院生(保存)

Photonics West: BIOS 2006, SPIE(The International Society for Optical Engineering)に平井教授は出席、加藤講師、明石大学院生は発表のため、1月20日(金)から28日(土)までアメリカ・サンフランシスコ、サンノゼへ出張。

遠藤隆行講師(生理)

Cell Signaling World 2006で発表のため、1月25日(水)から29日(日)までルクセンブルグへ出張。

篠崎尚史講師(市病・角膜センター)

WHO(World Health Organization)ミーティング出席のため、1月29日(日)から2月2日(木)までカナダ・オタワへ出張。

小板橋俊哉教授(市病・麻酔科)
Aspect Medical Systemsにおける講演、及びBIS
モニタリングに関する研究打ち合わせのため、

1月31日(火)から2月4日(土)までアメリカ・ボストンへ出張。

大学日誌

平成17年12月

- 1(木)大学院入学試験(期)願書受付開始
(~2/17)
第221回大学院セミナー
省エネルギーの日
防災安全自主点検日
- 2(金)社保委員会(水病)
- 3(土)5年生前期追・再試験
第2回試験問題作成に関するワークショップ(~4日)
- 5(月)第222回大学院セミナー
- 6(火)歯科衛生士専門学校職員会
看護部運営会議(市病)
- 7(水)リスクマネジメント部会
感染予防対策委員会(ICT)
MRSA院内感染対策委員会
臨床検査部運営委員会
輸血療法委員会
教務部(課)事務連絡会
千葉校舎課長会
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 8(木)一般入学試験(期)願書受付開始(~1/26)
第2回予算編成打合せ
第223回大学院セミナー
検査室委員会(市病)
薬事委員会(市病)
- 9(金)大学院事務連絡会
第18回歯科衛生士部勉強会(水病)
- 12(月)病院運営会議
高度先進医療専門委員会
医療用具治験審査委員会
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
第19回医療安全研修会

- 13(火)臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校1年生前期再試験(~12/24)
歯科衛生士専門学校教員会
院内褥瘡対策委員会(市病)
給食委員会(水病)
- 14(水)基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
学生部(課)事務連絡会
救急委員会(市病)
感染予防対策委員会(水病)
医療安全管理委員会(水病)
リスクマネジメント部会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
薬事委員会(水病)
- 15(木)環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
医療安全管理委員会(市病)
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
東京都エイズ診療従事者臨床研修(水病)
- 16(金)東京都エイズ診療従事者臨床研修(水病)
- 17(土)平成18年度第4回看護師採用試験(市病)
ピアノコンサート(市病)
- 19(月)1・2・3・4年生前期追・再試験(~22日)
- 20(火)歯科衛生士専門学校2年生前期再試験(~12/22)
機器等安全自主点検日
看護部運営会議(市病)
- 21(水)千葉校舎課長会
予算委員会
情報システム管理委員会
- 22(木)図書委員会
- 25(日)学生冬期休暇(~1/7)
歯科衛生士専門学校1・2年生冬期休暇(~1/7)

- | | |
|---|---|
| 26 (月) 6年生第4回総合学力試験 (1日目)
予算事務打合せ会
病院連絡協議会 (水病)
院内情報システム検討委員会 (水病) | 16 (月) 病院運営会議
高度先進医療専門委員会
医療用具治験審査委員会
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会 (ICC)
臨床教育委員会
医局長会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 |
| 27 (火) 6年生第4回総合学力試験 (2日目)
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会 | 17 (火) 院内褥瘡対策委員会 (市病)
18 (水) 学生部 (課) 事務連絡会
情報システム管理委員会 |
| 28 (水) 仕事納めの会 (千葉・市病・水病)
院内巡回 (市病) | 19 (木) 千葉校舎課長会
医療安全管理委員会 (市病)
部長会 (市病)
病院機能評価講習会 (市病)
管理診療委員会 (市病)
科長会 (水病) |
| 31 (土) 棚卸し (市病・栄養課) | 20 (金) 大学院事務連絡会
図書委員会
機器等安全自主点検日 |
| 平成18年1月 | 21 (土) ピアノコンサート (市病)
23 (月) 第20回医療安全研修会
看護部運営会議 (市病)
24 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
教養科目協議会
病院機能評価シミュレーション (市病) |
| 5 (木) 仕事始め・学長挨拶 (千葉・市病・水病)
教務部 (課) 事務連絡会
千葉校舎課長会
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
治験審査・倫理委員会 (市病)
口腔健康臨床科学講座会 (水病) | 25 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
東京都エイズ診療従事者臨床研修 (水病)
病院連絡協議会 (水病)
院内情報システム検討委員会 (水病)
診療録管理委員会 (水病) |
| 7 (土) 5年生総合学力試験 | 26 (木) 一般入学試験 (期) 願書受付締切
東京都エイズ診療従事者臨床研修 (水病) |
| 10 (火) 1・2・3・4年生授業再開
臨床教授連絡会
医療ガス管理委員会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校1年生授業再開
看護部運営会議 (市病) | 27 (金) 歯科衛生士専門学校一般入学試験願書締切
社保委員会 (水病) |
| 11 (水) リスクマネージメント部会
感染予防対策委員会 (ICT)
MRSA院内感染対策委員会
予算事務打合せ会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
救急委員会 (市病)
輸血療法委員会 (市病)
感染予防対策委員会 (水病)
医療安全管理部会 (水病)
リスクマネージメント部会 (水病)
個人情報保護委員会 (水病)
臨床検査室委員会 (水病)
放射線委員会 (水病)
薬事委員会 (水病) | 30 (月) 1・2・3・4年生後期授業終了 |
| 12 (木) 病院幹部会 (水病) | |
| 13 (金) 武道始め | |

東京歯科大学広報 編集委員

松久保 隆 (委員長)

石塚順子 浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 大塚 健 小倉 等 河田英司 北林伸康 柴家嘉明
嶋村一郎 新谷益朗 杉原直樹 高木直人 田口達夫 三木敦史 山岸 等 (平成18年1月現在)

編集後記

今年の干支は、“丙戌（ひのえ・いぬ）”である。干支歳時記によると“昨年（乙酉）は、古い秩序では御しきれない激しい動きが巻き起こり、社会が混乱する絵である。”で、“平成丙戌の年はこの現象が更に、あからさまになるだろう。先ず、階層間の摩擦が激しくなるだろう。上階層の住人は落ち葉になるまいと画策し、中・下階層の圧迫が強まる。”と予測している。過去の“丙戌”年は1886年の初代内閣総理大臣伊藤博文による議会制民主主義の開始があり、1946年には第一次吉田内閣が誕生した。これらは従来の制度の抜本的改革であり、それに間違いがなかったことを史実は示している。昨年は郵便制度に大きな改革が行われ、今度は国民皆保険制度の改革が始められているなか、今年から歯科界をリードする日本歯科医師会と日本歯科医学会とに新しい会長が誕生する。古い秩序では御しきれない激しい動きに的確に対応した抜本的な改革が期待されている。

右の写真は、1月21日に積雪したときの千葉校舎雪化粧の写真です。2月中には、いつもほぼ満開のカワソザクラ（河津桜）はまだつぼみの段階で、千葉に大学が移転後初めてのことで。

(大学広報部長: 松久保 隆)



大学広報はPDF版をオンラインで閲覧することができます。
<http://www.tdc.ac.jp/news/index.html>